

科目名称	保育実習Ⅰ（保育所）
授業コード	BM269
英語名称	Childcare Training 1
学期	2024年度後期
単位	2.0
担当教員	富岡 麻由子, 松山 寛, 田口 直子
※記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	保育実習Ⅰ（保育所）は、保育士資格取得のために必要な科目「保育実習」に含まれる、認可保育所、認可保育園、認定こども園（以下、保育所）における実習の一期目にあたる。原則として、大学2年次の冬期に実施する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	実習を行う前に、事前指導として保育士資格保有者（富岡）、保育士としての勤務経験者（田口、松山）、また保育現場で園長等の実務経験のある外部講師による指導を行う。実習施設となる保育所・こども園等で現職の保育士等から直接指導を受ける。
到達目標	保育実習Ⅰ（保育所）では、既習の事項や学内での学びを基に、保育に関する実践的な知識と技術を獲得するため、目的を以下とする。 ・保育所の役割と機能を具体的に理解する。 ・保育士としての業務内容および職業倫理を理解する。 ・乳幼児の発達と保育士の援助を具体的に学ぶ。 これにより、幼児保育学科のディプロマポリシーに示されている、観察・理解力を身に付けること、乳幼児の発達や育ちを基に指導計画を立案し、省察、改善を行うこと、他者への共感性や思いやり、コミュニケーション力を身に付けることを目指す。
計画・内容	保育所（認可保育所）、幼保連携型認定こども園、保育所型認定こども園において、10日間以上、80時間以上の保育所実習を行う。原則として観察実習、参加実習、部分実習を通して、保育者の補助を行ったり、子どもと直接かかわったりしながら保育の実践法を学習する。実習の目的を踏まえ、以下を実習の内容とする。 ・実習園の役割と機能、保育理念を理解する。 ・実習園の子どもの生活の実際を理解する。 ・子どもの遊び、生活、基本的習慣獲得のための保育士の関わりや援助を具体的に学ぶ。 ・子どもの安全・安定・疾病予防に関わる配慮について具体的に学ぶ。 ・子どもの観察・関わりや援助を通して、子どもの心情・関心への理解を深める。 ・記録の作成と指導により実習を省察し、保育・子ども理解を深める。 ・生活や遊びなどの一部分を担当し、保育技術を習得する。 実習園でのこども生活と発達の概況を知るため、複数のクラスで見学・観察実習を行う。そして、実習の進展にしたがい、参加実習、部分実習を段階的に経験する。具体的なスケジュールや配分は、実習園の実習指導の方針、保育の計画に沿って決められる。
授業の進め方	直接、保育所等に通い実習を行う。実習中に巡回指導担当教員が実習園に赴き、学生への直接の指導緒を行う。
能動的な学びの実施	保育現場に身を置き、保育所の役割、保育士の職務、乳幼児の生活と保育者の関わりへの理解を深める。また具体的な保育実践を経験し、保育士に必要な資質能力を高める。
授業時間外の学修	毎日の実習終了後に実習の振り返り、日誌の作成、翌日の学習課題の設定などを行う。

教科書・参考書	特になし。
成績評価方法と基準	実習園の評価（80%）、実習日誌の提出状況と内容（20%）により評価する。実習生の責任において実習を完了しなかったり、実習園の評価が著しく低く十分な学習が認められない場合、実習の事後指導を受けなかった場合は、単位が付与されない。
課題等に対するフィードバック	実習の事後指導を行う。
オフィスアワー	Campus Square参照。 実習中の実習に関する連絡や相談は、実習担当、巡回指導担当教員に行う。
留意事項	特別な事情でやむを得ず欠席・遅刻・早退となる場合は、実習生は事前に実習園の責任者および大学、巡回指導担当教員に連絡をする。実習生の責任において、無断で実習先オリエンテーションおよび実習を欠席・遅刻・早退した場合、実習を中止する。そのほか、実習の手引きに記載されている事項を理解し実習に望むこと。
非対面授業となった場合の「①授業の進め方」および「②成績評価方法と基準」	感染症対策等、実習施設の都合により実習が延期・中止になる場合がある。定められた期間での実習の完了が見込めない場合は、時期や実習施設を変更して合計80時間以上の実習を行う。成績評価は通常時と同様、実習施設の評価（80%）、実習日誌の提出状況と内容（20%）により評価する。